



What I do, study, and think as an information professional

インフォプロってなんだ？

私の仕事, 学び, そして考え

第 29 回 上野 京子
化学情報協会 情報事業部

情報管理 54(7), 421-422, doi: 10.1241/johokanri.54.421 (<http://dx.doi.org/10.1241/johokanri.54.421>)

はじめに

私が所属しているのは、インフォプロや研究者向けの情報サービスであるSTNやSciFinderを提供する機関であり、今までこのシリーズに登場された皆様とは立場が異なる。そのため今回の話には戸惑いがあったが、今まで仕事の上で多くのインフォプロの方に接する機会があったので、その中で印象に残った方々の仕事に対する姿勢などを思い出しながら、これからインフォプロを目指す皆様へのヒントをご提供できればと思い、お引き受けすることにした。

就職してから現在まで

本題に入る前に、私自身の経歴について述べると、大学の工学研究科化学工学専攻の修士課程を修了後すぐに化学情報協会に入社し、初めはChemical Abstracts (CA) の抄録・索引を作成する部署に配属された。ここでの業務は、日本特許を読んで、CA用に英文抄録を作成し、特許中の主題や物質を抽出して索引を作成することであった。索引作成には厳密なルールがあるが、自分の作成した索引がルールにのっとっているかを調べるのにSTNを随分と活用した。この経験があったので、STNやCA冊子体の講習会の講師をこの頃から担当していた。私がインフォプロ（当時はサーチャーと呼ばれていた）と出会ったのは、この講習会講師を始めた頃であった。

講師の仕事を始めて一番衝撃を受けたのは、自分たちが最も神経を使って作成している索引を検索す

る方々があまり活用していない、ということに気づいたときであった。一定のルールに基づいた索引が付与されていることがCAの一番の強みのはずであるが、作成する側の意図が利用者に伝わっていないのでは意味がない、ということを感じ、ではその良さや有効な活用方法を知ってもらうにはどうすればよいか、ということ考えるようになった。この経験は私のその後の仕事に大きな影響を与えることになった。

その後異動になり、データベースを作る立場からサービスを提供する現在の業務に変わった。異動した当時はモデム時代であったが、その後恐ろしいほどのペースでこの業界は発展を続け、データベースサービスそのものはもちろん、その利用者の業務も大きく変化し、インフォプロ（情報のプロ）という名前がぴったりの時代になった。

尊敬するインフォプロ

私が今まで出会ったインフォプロの中で、この方はすごいなと思った方々には、下記のような共通点がある。

- ・利用するサービスについての理解が深い
- ・情報収集に熱心
- ・横のつながりを大事にする
- ・聞き上手で聞きだし上手

これらについて具体的に説明したいと思う。

(1) 利用するサービスについての理解が深い

データベースやサービスにはそれぞれ特徴がある。当たり前のことだが「収録されていない情報は見つからない」のである。従って、どのサービスを利用する場合でも、収録情報、収録範囲、収録方針、検索機能をしっかりと把握しておく必要がある。1980年以降のデータしかないデータベースで1970年の論文や特許を見つけることはできない。たとえ収録対象雑誌が数千誌あっても、実際には抄録が全体の30%程度しか収録されていないデータベースでキーワード検索をしても、網羅的な検索とはいえない。化合物に関する調査でも、それぞれのデータベースでの索引方針や索引方法を調べずに検索しても結果の意味するところは説明できない。「コンテンツ」を常に意識して、サービスやデータベースを利用できる方は、検索結果について自信が持てるので、周りからも非常に信頼されている。

(2) 情報収集に熱心

サービスは日々進化している。新たなコンテンツや機能がどんどん追加されていくが、その最新情報のフォローを欠かさない人は、新しい情報を十二分に活用できるので、その分有用な情報へアクセスできる可能性が高くなる。その一方で、業務を始めた頃のノウハウだけを頼りに検索を行い、当時の情報をそのまま信じている方も結構いらっしゃる。とても残念なことである。

ただこれにはサービスする側にも責任の一端はあると感じている。ユーザーミーティングやセミナー・講習会の開催やホームページでの広報は行っているが、インフォプロの方が忙しい業務の中で情報収集に時間をかけることができなくなっているという現状も理解できる。サービス側としても、より効果的な情報伝達手段を考え、もっと多くの利用者にサービスをより有効に活用してもらえるようにしなくてはいけないと感じている。

(3) 横のつながりを大事にする

一社あたりのインフォプロの数はほとんどの場合

そう多くはない。その分、インフォプロにとって技量向上の場を見つけるのはなかなか難しいと思う。一方、誰でも得意分野を持っている。自身のレベルアップに熱心な方たちは、インフォプロ同士のつながりを通して、ノウハウを可能な範囲で共有している。誰もが始めたときは初心者であるが、どんどん力をつけていく方は、いろいろな会（研究会、分科会、セミナー、シンポジウムなど）に積極的に顔を出しているように感じる。そのような場に参加することで、多くのインフォプロと知り合いになり、刺激を受け、情報交換をし、知識を蓄積している。

(4) 聞き上手で聞きだし上手

依頼者が求めていることを把握することがインフォプロの業務の中で重要な要素であることは言うまでもない。しかし、依頼者は自分にとって当然の事実は説明時に省略したり、漠然とした要望しか伝えてこないこともある。質問者が満足する回答を提供するには、何よりもどのような情報が本当に必要なのかを理解することが大事である。それにはまずは相手の話を聞く、要求のポイントを聞きだすことから始まる。聞き上手であり聞きだし上手であることは、信頼されるインフォプロになるために必須の能力である。

最後に

今回あげたスキルはどれをとっても特別なものはない。ちょっとした心構えで誰でもが身につけることができるものばかりである。これからインフォプロを目指す皆様はぜひこの4つの要素を頭の片隅において、仕事を進める上で時折思い出していただければ幸いである。

インフォプロの皆様のレベルアップは、そのままデータベースサービスの発展につながる。提供側としても全面的にバックアップしていきたいと考えている。